


フランスの文学と文化

ジャン＝ジャック・ルソーの生涯と 『新エロイーズ』

～小説に見るオペラ的な要素～

講師：白川理恵

目白大学講師

6月20日  13:00～14:30

会場：語学センター LL403A

概要：

ルソーは、オペラの幕間劇『村の占い師』(1752)で音楽と詩の両方を手掛けるオペラ作家として才能を花開かせ、書簡体小説『新エロイーズ』(1761)で18世紀最大のベストセラー作家となり、次々と人々を夢中にさせる音楽や文体を作り上げていきました。その小説『新エロイーズ』では、登場人物たちによってオペラ談義が繰り広げられ、ときにはオペラの一場面を想起させるかのような描写が展開され、ルソーがつねにオペラを意識し、オペラの理論や技法が読者の心情に与える効果を狙って文体を作り上げていたかのように考えることができます。講義では、こうした場面のいくつかを紹介し、近代小説の萌芽期に生まれた『新エロイーズ』を中心としたルソーの小説が、オペラの理論と技法をもとに練り上げられていったのではないかという仮説を立てて、その一端を検証してみます。

18世紀フランスの啓蒙思想家たちと同じようにルソーもまた、現在私たちが一つの分野と括って考えているような研究や思想に、思考の枠や境界を設けることはありません。オペラも小説も18世紀的な文芸の世界にあると大きく捉え、思想／文学／芸術がルソーの作品群においては決して切り離して捉えられるものではないということを、みなさんと一緒に考えてみたいと思っています。

* 本講演は「フランスの文学と文化」(担当：国際学部・大場静枝)の授業の一環で開催します。受講者以外の方の聴講も歓迎します。